

## ◆水泳学習が始まりました◆

平成 27 年 6 月 15 日 (月)



次第に気温が高くなってきて、暑い日が多くなってきました。そんな中、水泳学習が始まり子ども達は大喜びです。今年も、ローズアリーナのプールをお借りし、専門の指導員の方にも入っていただいて実施しています。

自分のペースで泳力を伸ばそうと、泳力レベル別のクラスに分かれて、子ども達は意欲的に取り組んでいます。手足の動きや、息継ぎのタイミングに悪戦苦闘しながらも、先生たちのアドバイスに一生懸命耳を傾け、真剣に泳ぐ姿が見られます。はじめは「久しぶりだから上手に泳げるかな。」と不安

な様子もありましたが、回を追うごとに少しずつ成長する自分自身を実感し、自信へと繋がっています。

1 年生は、初めての水泳に期待と同時に少しの緊張が見られましたが、入った時の水の気持ちよさや、浮遊感を楽しみながらだんだんと活動的になってきています。

水泳学習は残りわずかとなりましたが、引き続きがんばろうね！みんな！



## ◆4 年生が野外活動に行ってきました◆

平成 27 年 7 月 6 日 (月)



4 年生 41 名が、ふくやまふれ愛ランドに野外活動に行きました。天候は曇り模様となりましたが、程よく過ごしやすい気温の中で活動することができました。班に分かれ、午前中は「飯ごう炊さん・カレー作り」、午後は「室内雪合戦」の活動を行いました。

飯ごう炊さん・カレー作りは、まきわり・ごはん・カレーの担当に分かれ、おいしいカレーライスが出来上がるよう、自分の役割に責任を持って動くことができました。みんなで協力して出来上がったカレーライスのおいしさや達成感に、たくさんの笑顔が溢れました。

室内雪合戦では、攻撃と守備に分かれ、相手の旗を取りに駆けていきました。班ごとに色々な作戦を立て、助け合いながら楽しんで行うことができました。旗をとった時の子どもの表情は、とてもキラキラ輝いていました。

今回の野外活動で、お互いを思いやり、みんなで協力することの大切さを学びました。また、友達とのふれあいを深めながら、楽しい思い出を作ることができました。野外活動で学んだことを活かし、これからの生活へ繋げていってほしいと思います。そして、4 年生の野外活動で学んだことは、5 年生の野外活動へと繋がっていきます。



ぎんがの郷コラム

藤尾 倫梨子

みなさんは「幽体離脱」という言葉をお聞きになったことはありますか。いえいえ、心霊現象的な意味ではありません。脳科学の専門用語で「体外離脱体験」を意味する言葉です。平易な表現をすれば、「心が身体の外にワープすること」だそうです。こんなことが本当に起こるのでしょうか。実は、ある種の刺激により、実際に幽体離脱を起こす脳部位が存在するそうです。例えば、一流スポーツ選手の中には、上空から自分のプレイが見えるという人がいます。これも、広い意味での幽体離脱と言えるらしいのです。

我々は日常生活の中で何か困難や障害にぶつかった時、「何がいけなかったのだろう」と反省したり、「周りの人はどう思ったのかな」と客観的に振り返ったりします。そうです。まるで自分の動きを上空から見のように振り返ろうとします。このように客観的に物事を捉え整理し、次の経験に備えることが人としての成長なのでしょう。

子ども達が失敗したり、壁にぶつかったりしたときに、「幽体離脱」をすることによって、しっかり自己分析・要因分析ができるように支援していきたいものです。

参考図書『単純な脳、複雑な「私」

著者／池谷裕一

ぎんがの郷タイムス第4号は9月上旬にお届けする予定です。